

素敵に輝け！

言葉のやり取りを大切に

1年生が生活科の学習で、教職員のところへインタビューに回っています。先日、私のところへも来てくれました。

A：「失礼します。私は1年のAです。インタ、インタ」（上手く言えないようです）

私：「インタビューかな。言ってごらん」

A：「インタビューをしてもいいですか」（今度はちゃんと言えました）

その後、「名前」「仕事」「嬉しいこと」「好きな動物」「嫌いな食べ物」を順に聞かれました。好きな動物については、「どんな動物が好きですか」「私は犬が好きです」とやり取りした後に、「あっ、間違えました。僕はパンダが好きですが、先生はどんな動物が好きですか」と言い直しました。嫌いな食べ物では、「〇〇が苦手です」と答えると、「僕も一緒です」と反応してくれました。一通りインタビューが終わって廊下に出てから、そこで待っていた担任の先生に、「少し長くなりました」と伝えていました。

教室での事前練習では、「メモから目を離すことができない」「声が小さすぎる」「何から言うのか分からなくなった」などの反省があったようです。また担任からは「子供の様子に合わせて、厳しく、優しく、丁寧に、詳しく、簡単になど、いかように関わっていただいてもよいです。何事も勉強になります」と聞いていましたが、Aさんは、もの凄く緊張しながらも、しっかり私の目を見て、一つ一つの質問をしっかりと行うことができたので、特別指導することはありませんでした。

感心したのは、「あっ、間違えました」「僕も一緒です」「少し長くなりました」の言葉です。この言葉は練習にはなく、準備したものではなかったはずです。状況に応じて出てきた言葉ですね。

今年度、「教師が子供たちの意見をつなぎ、子供たちが対話をしながら思考を深める」ということを意識して授業に取り組んでいます。今回のAさんの言葉や、前号で紹介した「校長先生こそ、お疲れ様でした」など、「相手の言葉を受けて返す」「思いを素直に伝える」ということは授業につながる力のように感じます。「対話をしながら思考を深める」ための力を育む場面は、日常の中にもたくさんあるのかもしれませんが、日頃の言葉のやり取りも大切にしていきたいものです。

「また聞きたいことがあったら来ていいよ」と伝えて送り出すと、数分後にまたAさんがやってきました。「忘れたことがあるので、またインタビューしてもいいですか」と。今度はインタビューの言葉がちゃんと言えました。質問が終わって送り出すと、廊下に担任の先生はいませんでした。数分前はあれだけ緊張していたのに、今回は一人でできました。繰り返し経験することの効果ですね。時に子供の吸収力には感心します。